



第3回ユネスコスクール全国大会 持続発展教育(ESD)研究大会 「ESDの深化と拡充」

—— 抄 録 集 ——

開催日：平成23年11月12日(土)

会 場：国立大学法人東京海洋大学
品川キャンパス

第3回ユネスコスクール全国大会 持続発展教育(ESD)研究大会

抄 録 集

平成23年11月12日(土)

東京海洋大学・品川キャンパス

主催：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会

共催：NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム

財団法人ユネスコ・アジア文化センター、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

後援：外務省、環境省、東京都教育委員会、港区教育委員会、全国連合小学校長会

全日本中学校長会、全国高等学校長協会、全国国公立幼稚園長会

全国国立大学附属学校連盟、一般社団法人国立大学協会、日本私立大学協会

社団法人日本私立大学連盟、日本私立中学高等学校連合会

日本私立小学校連合会、全日本私立幼稚園連合会

社団法人日本PTA全国協議会、株式会社教育新聞社

目 次

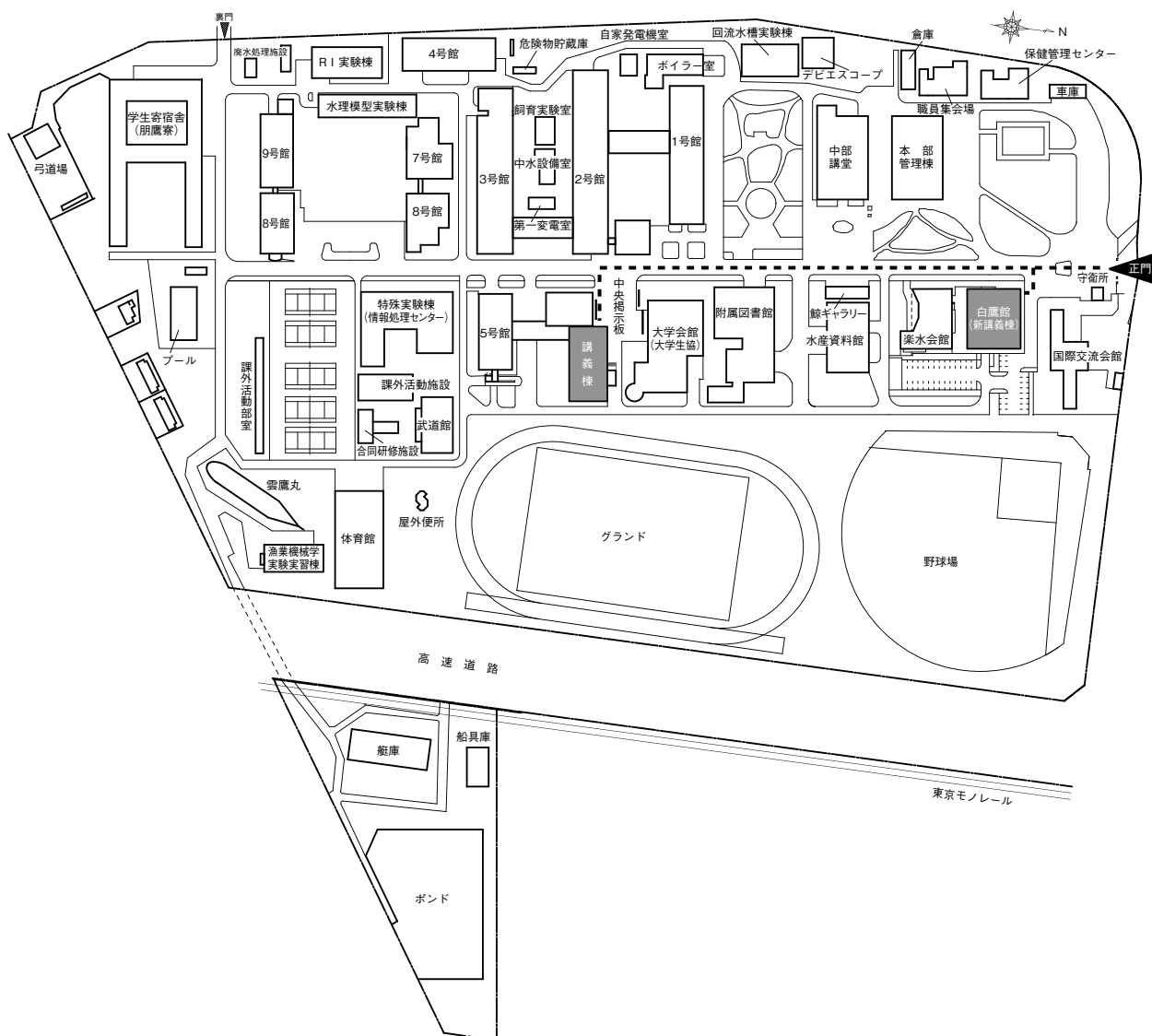
◆大会日程	2
◆会場案内	3
◆研究授業	6
東京都江東区立八名川小学校	
特別講師：東京海洋大学客員准教授 さかなクン	
◆テーマ別交流研修会	10
第1分科会① ユネスコスクールのスタート ESDの校内浸透・連携（幼稚園、小学校）	11
第1分科会② ユネスコスクールのスタート ESDの校内浸透・連携（中学校、高等学校）	12
第2分科会 学校間交流	13
第3分科会① 教科とのリンク（小学校）	14
第3分科会② 教科とのリンク（中学校、高等学校）	15
第4分科会 地域や博物館、企業、NPO等との連携	16
第5分科会 教材開発 環境教育	17
第6分科会 教材開発 国際理解教育	18
第7分科会 ESDと評価（学力含む）	19
◆シンポジウム	20
◆ランチョンセッション（協力企業による社会貢献活動紹介）	22
◆ユネスコスクール一覧	26
◆「教育と心の復興プロジェクト」被災児童生徒奨学金の報告	29
◆持続発展教育（ESD）大賞について	30
◆協力企業・展示団体一覧	表3

大会日程

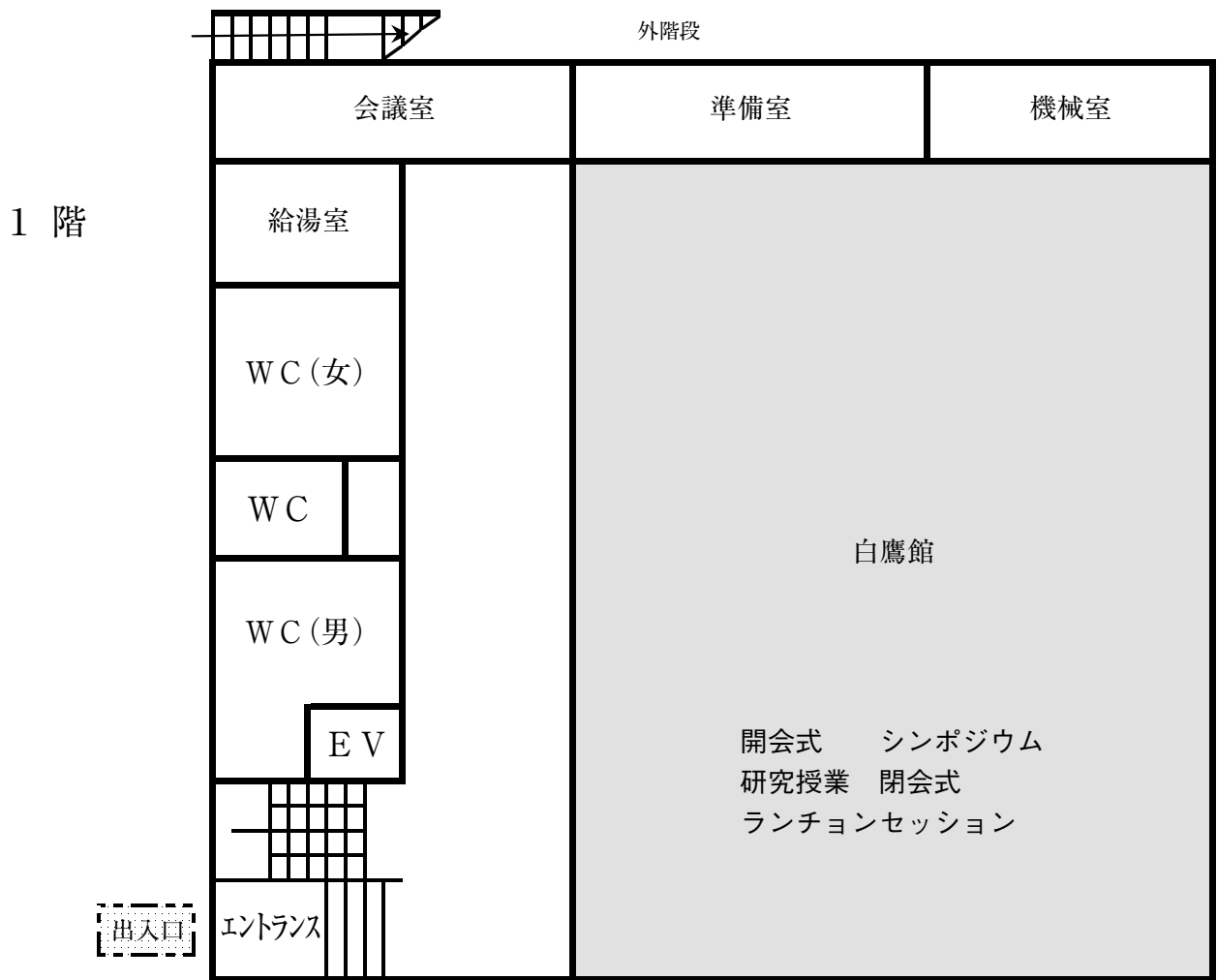
時間	プログラム	会場
9:30～10:00	受付	白鷹館
10:00～10:20	開会式 あいさつ 文部科学大臣 中川 正春 日本ユネスコ国内委員会会長 田村 哲夫	白鷹館
10:30～12:00	研究授業 学 校：東京都江東区立八名川小学校 6年生 特別講師：さかなクン (東京海洋大学客員准教授／ お魚らいふ・コーディネーター／ 環境省 地球いきもの応援団)	白鷹館
12:00～13:30	ランチョンセッション（協力企業による社会貢献活動紹介） ※昼食を準備いたします。	白鷹館
	（同時開催）団体展示（ESD関連団体による活動紹介）	講義棟 31番
13:30～15:30	テーマ別交流研修会 第1分科会① 「ユネスコスクールのスタート ESDの校内浸透・連携」 幼稚園、小学校 第1分科会② 「ユネスコスクールのスタート ESDの校内浸透・連携」 中学校、高等学校 第2分科会 「学校間交流」 第3分科会① 「教科とのリンク」 小学校 第3分科会② 「教科とのリンク」 中学校、高等学校 第4分科会 「地域や博物館、企業、NPO等との連携」 第5分科会 「教材開発 環境教育」 第6分科会 「教材開発 国際理解教育」 第7分科会 「ESDと評価（学力含む）」	講義棟 32番、33番 34番、35番 41番、42番 43番、44番 45番
15:40～16:40	シンポジウム 国立教育政策研究所プロジェクト研究 「学校における持続可能な発展のための 教育（ESD）に関する研究」 講師 国立教育政策研究所総括研究官 五島 政一 国立教育政策研究所総括研究官 後藤 顕一	白鷹館
16:45～17:00	閉会式・持続発展教育（ESD）大賞 表彰式	白鷹館

会場案内

東京海洋大学 品川キャンパス



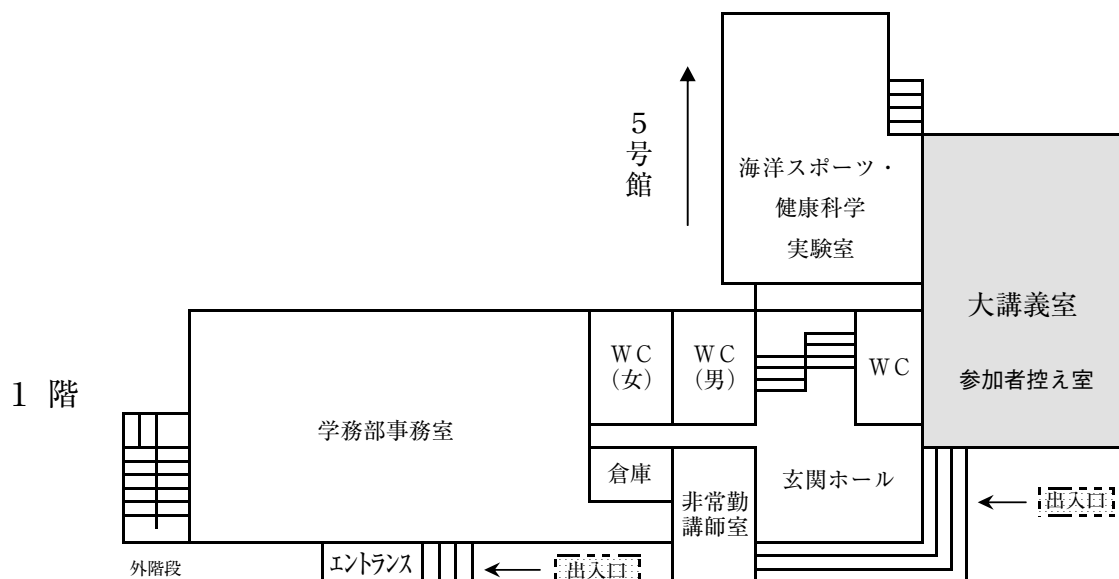
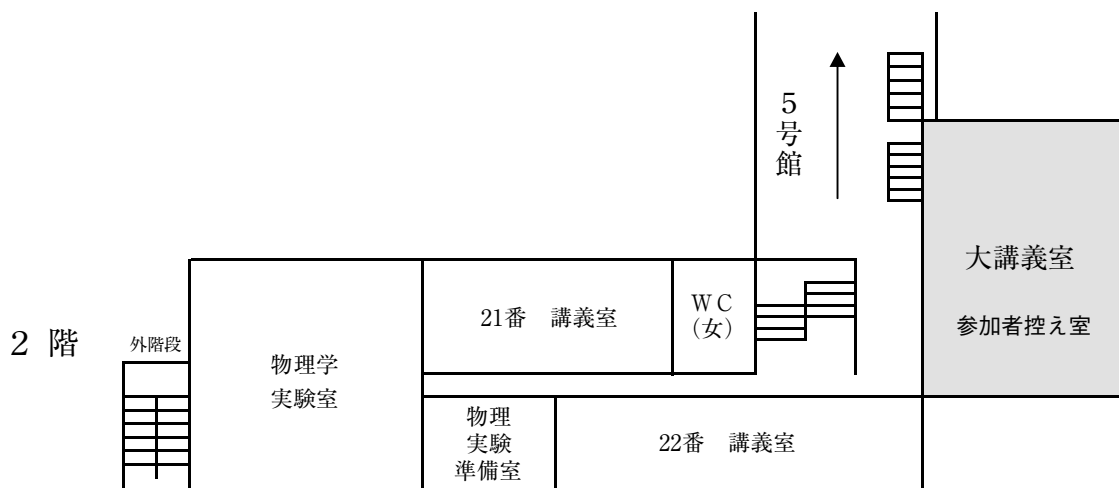
白鷹館



講義棟

テーマ別交流研修会

第1分科会 1-①：44番 第3分科会 3-①：45番 第5分科会：32番
 第1分科会 1-②：42番 第3分科会 3-②：43番 第6分科会：34番
 第2分科会：41番 第4分科会：33番 第7分科会：35番



6年生の総合的な学習の時間の実践について

東京都江東区立八名川小学校

校長 手島 利夫 (授業者 吉岡 佐登美 教諭)

八名川小学校では、6年生の総合的な学習としてこの地域について関心を深めさせ、自分たちのふるさととして語れるようにさせたいと考えております。

江戸の町が発展する中で深川一帯が形作られ、整備され、人々の営みが積み上げられていることを、大きな歴史の流れに位置づけて理解させ、「六間堀と運河の開削」や「干鰯場と水上交通」「江戸前の自然と食文化」「お船蔵と安宅丸の役割」「芭蕉庵や地域に残る句碑と俳人たち」などのようなテーマで学習が進むことを目指しています。

学習の動機付けとして、竹中工務店作成の都市計画資料「水彩都市江東区400年の歴史と未来について」をもとにした資料を学区にお住まいの時代小説作家の牧秀彦さんにもプレゼンしていただきました。(7月8日・3～4校時)

なお、牧秀彦さんはご自身の小説の取材でこの町が気に入って、八名川小の学区に住み着いてしまったという方です。ご本人は「運河や地名を手がかりに歴史を探らせたらどうか・・・」などと話し、安宅丸や猪牙船、地図に残る六間堀(運河)や、干鰯場や芭蕉庵のわかる古地図等の資料を準備してくださいました。

この学習は地域の文化を重視するという観点から進め、文化理解から環境教育の視点に広げ、地域の学習資源を生かしたESD実践(ユネスコスクールのテーマ)として根付かせていこうと思っています。

11月12日(土)のユネスコスクール全国大会での授業公開では、この学びを大きく進め、地域の食文化(アサリの深川井、ウナギの蒲焼き、江戸前寿司、稲荷寿司などについて、あるいは、このうちのどれか)を児童が調べ発表できるようにしたいと考えております。それに対して東京海洋大学准教授さかなクンには、江戸前の豊かな海の生きもの(貝や魚など)のお話、あるいは、最近の温暖化の影響による東京湾の生きものの変化といった視点までお話いただきます。

寿司ネタでもコハダ、穴子、鯖、鰻、シャコ、エビ、イカ、タコ、鯛、クロダイなんておいしそうですね。この他、白魚やハゼ、キス・カレイ・コチなどもずいぶん捕れたようですが……。貝もマテ、赤貝、アオヤギ、ハマグリ、アサリ、ヨリニシ……シジミも売りに来ていました。この辺のことを児童が少しでも興味をもって調べられたら、話が広がるように思っています。

授業の全体像(単元の流れ)は次のようなものになると思います。

- ①「時代小説作家から見た江東区のおもしろさ」のタイトルで牧秀彦さんに授業をしていただく。

江東区(の昔)について「深川といえど?」の発問から学習を始め、江戸時代初めに深川八郎右衛門による埋め立てが進み、深川の地が形づくられたことや、江戸初期の新田開発や隅田川東岸の開発、運河の整備材木置き場や干鰯場の設置などについて具体的な事実をつかませる。そして、『この町の歴史をたどり、誇りを持って語れるようになろう』と働きかけ、学習の方向付けをする。

- ②番所橋資料館を見学し、江戸時代における小名木川の役割や、川の関所とも言える「船番所」の働きについて理解する。展示物から、江戸時代における「青キスつり」の様子にもふれる。

- ③どんなことに目を付けて調べようか考えつつ、夏休みなどを利用してぶらぶら探検を奨める。

そのヒントとして昨年度の6年生に示した例を示す。

1)「六間堀と運河の開削」

猿子橋(地名)に着目し、地図から掘り割りの跡を確かめ、小名木四郎兵衛(小名木川の開削者)等を手がかりに、運河の名前や広がり、役目について調べ、語れるようになる。

2)「干鰯場から小名木川の水運をたどろう」

江戸時代の重要な金肥である干鰯から、銚子の漁業と農業をつなぐ流通の様子をたどり、江戸時代の産業について語れるようになる。(鰯から魚油を絞り、灯油として使い、鰯を絞った粕を干して、綿花や藍の栽培用の肥料として売買されていた)

3)「安宅丸や御船蔵から、江戸時代以降の船を調べよう」

船の種類や使われ方等について、和船体験などを含めて調べ、語れるようになる。(猪牙船から外輪船まで) 運河の歴史等については、番所橋資料館の見学をするという。

4)「新大橋にまつわる思い出を探り、橋物語を書こう」

隅田川の橋の歴史、インタビュー

地域の方々の橋に寄せる思いを聞き取ろう (キーワードは「聞き書き」)

5)「松尾芭蕉とその時代を調べ、俳句や旅も含めて語れるようになろう」

旅路とその街道 (江戸時代の交通) (キーワードは「芭蕉庵」)

その他)「深川神明宮と町の発展を語ろう」「江島杉山神社で犬公方といわれる五代将軍綱吉の「知られざる素顔をさぐろう」「深川の開発と木場の発展」なども今後可能なテーマになりそう

④ 9月に中間報告会 (個人)

(校内研究会 9月22日木曜日・5校時、13時40分から14時25分まで授業、指導講師 目白大学人間学部 多田孝志先生)
ぶらぶら探検の結果、児童は次のようなことを調べようかと考え始めているようです。

- ・ 深川でとれる魚と料理
- ・ 魚の捕れた場所とその道具
- ・ 食べ物と交通
- ・ 江戸と食べ物と水路
- ・ 野菜と交通
- ・ 中川船番所とそこを運ばれてくる品々
- ・ 深川のまつり
- ・ 神明宮の歴史
- ・ 神明幼稚園
- ・ 富岡八幡宮
- ・ 深川地区のまつり
- ・ 不動明王と深川の神様
- ・ 伊能忠敬と富岡八幡宮
- ・ 川と橋
- ・ 新大橋と隅田川の橋
- ・ 清澄庭園とその植物
- ・ 清澄庭園と生きもの
- ・ 清澄公園と庭園
- ・ 町人のくらしと着物
- ・ 木場の角乗りと木場の歴史

このようなことを踏まえて、資料館のことを解説したビデオを児童に見せて、予習してから9月5日月曜日に深川江戸資料館に見学に出かける。

⑤ 中間報告の内容から、似たような内容毎にグループを作り、グループでの調べ学習を展開する。

⑥ 調べた内容を、グループ毎に発表し合う。その一環としてユネスコスクール全国大会の会場でも発表し、ゲストティーチャーの「さかなクン」から指導や講評をいただく。

⑦ 次の単元では、環境問題について新たな取り組みをすすめていく。

特別講師：さかなクン

東京海洋大学客員准教授
お魚らいふ・コーディネーター
環境省 地球いきもの応援団

プロフィール

魚に関する豊富な知識と経験に裏付けされたお話や、そのキャラクターが幼児からお茶の間まで人気を集める。子どもたちを中心に魚や海・自然への興味を引き出し、漁業魚食と環境保全への理解が増すよう、さかなクンらしいカリキュラムを組み、全国規模で講演を行うほか、テレビやラジオ出演、新聞・雑誌への連載、著作活動などでも幅広く活躍している。

略 歴

日本政府・クールアースアンバサダー／WWFジャパン親善大使・顧問／農林水産省・お魚大使／農林水産省フード・アクション・ニッポン応援団／環境省・「環のくらし応援団」メンバー／日本魚類学会会員／環境省チャレンジ25キャンペーンメンバー／千葉県館山市「ふるさと親善大使」第一号／静岡県御前崎市なぶら親善大使／新潟おさかな大使 など

活動紹介

・テレビ

NHK総合「ごきげん歌謡笑劇団」
レギュラー

・ラジオ

TBSラジオ
「大沢悠里のゆうゆうワイド」
毎週火曜レギュラー

・連載

朝日小学生新聞
毎週土曜日イラストコラム連載
小学館
「小学三年生」にてイラストコラム
連載
舵社
「Bort CLUB」にてイラストコラム
連載

・著 書

角川つばさ文庫
「おしえて! さかなクン」全3巻
小学館の図鑑NEO
「本物の大きさ絵本 原寸大 すいぞく
館」
小学館「あいうえお魚くいずかん」
リヨン社「さかなのなみだ」
徳間書店
環境省・環のくらし応援団「地球の
環」他、著書多数



テーマ別交流研修会(講義棟3・4階) 13:30～15:30

教 室	テ ェ マ	事例発表者
第1分科会① 44番	ユネスコスクールのスタート E S Dの校内浸透・連携（幼稚園、小学校）	東京都多摩市立南鶴牧小学校 主幹教諭 關口 寿也
第1分科会② 42番	ユネスコスクールのスタート E S Dの校内浸透・連携（中学校、高等学校）	東京都多摩市立東愛宕中学校 校長 富田 広
第2分科会 41番	学校間交流	宮城県気仙沼市立松岩中学校 教諭 森 美紀子
第3分科会① 45番	教科とのリンク（小学校）	東京都江東区立東雲小学校 教諭 廣瀬 修也
第3分科会② 43番	教科とのリンク（中学校、高等学校）	静岡県伊豆市立天城中学校 校長 大塚 明
第4分科会 33番	地域や博物館・企業・N P O等との連携	宮城県気仙沼市立気仙沼小学校 教諭 及川 理恵
第5分科会 32番	教材開発 環境教育	宮城県気仙沼市立津谷小学校 教諭 千葉 和一
第6分科会 34番	教材開発 国際理解教育	広島県立尾道北高校 教諭 高村 聖悟
第7分科会 35番	E S Dと評価（学力含む）	広島県福山市立駅家西小学校 教諭 村上 克行

第1分科会① ユネスコスクールのスタート ESDの校内浸透・連携(幼稚園、小学校)

時代はESD

關口 寿也（東京都多摩市立南鶴牧小学校 主幹教諭）

【ESDまでの道のり】

本校は多摩ニュータウンの中に位置し、敷地の中に広い畑があります。地域全体が造成地のために手つかずの自然の部分がないこともあり、以前より、校内では実体験としての栽培活動に力を入れていました。また、「特色ある学校づくり」の推進に伴って、野鳥観察に力を入れ、巣箱や餌台の設置、果樹のなる樹木の植樹、ビオトープづくりなどを進めてきました。そんな時に目にしたのが、社会経済生産性本部のエネルギー環境教育実践校の募集でした。幸い委嘱を受けることができました。市内の研究奨励校としての年度とも重なり、これまでの栽培活動や野鳥観察を基盤とした、エネルギー環境教育としての研究を校内で取り組むことになりました。



エネルギー環境教育を進めていく上で必要なことは、(1)指導計画及び授業プランの作成 (2)校内の環境整備 (3)教員の研修と意識向上 です。しかし、未知の分野であるが故に、スムーズに研究が進んだわけではありません。3年間にわたる、各学年での授業プランの作成や、教材教具の充実、風力発電や使用電力計の設置、夏季休業中に行った教育の施設見学などを通して、少しずつ本校の実態に合ったプランを創りあげていきました。

そんな折りにESDという考え方が広がり始めました。エネルギー環境教育を進めてきた本校にとって、環境問題はこれからの社会を担っていく子どもたちに不可欠であるという認識を共有できていましたから、「ESD（持続可能な発展のための教育）」は正に我が意を得たりでした。「環境教育」と「エネルギー教育」を軸として、ESDを進めていくことになったわけです。

【ESDを進める上での課題点】

ESDを進めていく上で、学びが机上だけになってはいけません。体験し、考えたことを互いに伝播し共有していくことも必要です。そこに明日の社会が創造されるはずです。ユネスコスクールの加盟に伴って、「伝播」「共有」はより明確なものになりました。

また、校内の指導計画がしっかりと継承され、次の学年につながるように実践されることも大切です。あわせて、時代に即したブラッシュアップや、継続的な教員の意識向上も必須です。このような教員間(学年間)の情報交換や交流の設定も行う必要があります。

さらに、ESDは「環境教育」「エネルギー教育」だけの範疇で行われるだけでは十分ではありません。ESDは全ての学習の中に息づいていることもわかってきました。

このような課題点への取り組みを、「ESD実践報告～環境教育からのアプローチ～」として紹介いたします。各校のESDの取り組みへのヒントとなれば幸いです。

第1分科会② ユネスコスクールのスタート ESDの校内浸透・連携(中学校、高等学校)

ESDの推進をめざして

富田 広（東京都多摩市立東愛宕中学校 校長）

【ESDとの出会い】

ESDの概念や活動内容を初めて聞いたときの率直な印象は「今まで、本校でやってきた教育活動でもESDに置き換えられる。」ということでした。その時、ESD導入のために新企画を立ち上げ、ゼロからスタートしなくてはならないと感じたら、今のような積極的な関わりは難しかったかもしれません。

学校教育の目的は「生きる力を育てること。」です。そのためには、体験や問題解決学習、言語力・表現力、コミュニケーション能力等が重視されています。また、国際理解教育や人権教育も欠かせません。新学習指導要領では持続可能な社会を目指すことが記載されています。これらのことは、ESDでも目指すところで、学校教育の目指すところと同じです。校内でのESD浸透のためには、ESDと学校教育の目指していることが多くの点で一致することを理解することが大切です。この理解が、ESDを校内で推進させるための出発時のおおきな足がかりになりました。

【ESDの校内浸透】

しかし、ESDの概念は理解できても、具体的な実感がもてません。そのような時、校庭のグリーンカーテンで実ったゴーヤを受け取った地域の方からゴーヤの実が描かれた絵手紙の礼状をいただきました。その絵は生徒会が作成したエコバックのデザインに使われ、バッグは市民に配られました。東日本大震災の募金活動では募金者にエコバックを配りましたが、この活動は多摩市内の全中学校に広がりました。一本のゴーヤが多くの人々や社会とのつながりを広めることで、生徒の優しさを育てたのです。私たちはゴーヤを通して「人と人」、「人と社会」のつながりを深め、持続可能な温かみのある地域社会づくりを進める機会に出会えたのです。このことから、ESDを実感した教職員らはESDの推進を加速させることができました。



【ESDの実践】

今回は本校でのESD推進のスタートから組織づくり、ユネスコスクール加盟までの課題とその解決に向けた試みを紹介します。また、校庭の芝生化や生徒達のボランティア活動による地域住民との関わりについて、さらに、職場体験のESD的な視点での見直し、JAM（ジャパンアートマイル）によるアゼルバイジャンの中学生との壁画共同制作などを「人と人」、「人と社会」、「人と自然」の各つながりを深めながら実践していることを紹介いたします。また、ACCU（国際教育交流事業）での教員の海外派遣も校内でのESDの推進に大変役立ったことを紹介します。本発表がESDの各校での取り組みに少しでも役立つことを願っています。

第2分科会 学校間交流

福祉の里づくり ～福祉を通して未来を考える～

森 美紀子（宮城県気仙沼市立松岩中学校 教諭）

1 概要

本校のE S Dは「福祉」を通して、「全ての人」のための未来を築くことの必要性を、体験を通して実感させると同時に、その担い手としての自覚を高め、積極的に関わっていこうとする心と態度を育てることを目的としている。そのため、学区内にある、特別支援学校・老人福祉施設・福祉施設工房など福祉施設との連携、交流を活動の中心に据え、地域に根ざした「協同的学び」「探究的学び」を通して、あるべき未来の姿やビジョンを共有し共創していくスキルの育成を目指す。

2 実践内容

○第1学年テーマ 「仲間づくり・互いを知るために」 【学校間交流】

気仙沼支援学校との交流活動を通して、互いに認め合い、協力し合う意識を育てるとともに、障害者福祉について考え、福祉に対して主体的、創造的な態度や問題解決能力を育てることをねらいとしている。

※年間で、運動会交流、レクリエーション交流、グランドゴルフ交流、クリスマス交流の4回の交流を行い、その活動の中から課題を見つけ、探究し、次の活動に生かしていく。

○第2学年テーマ 「先人に学ぶ」 【地域交流】

高齢者との交流活動を通して、人生の先輩として尊敬し、敬う意識を育てるとともに、高齢者福祉について考え、福祉に対して主体的、創造的な態度や問題解決能力を育てることをねらいとしている。

○第3学年テーマ 「未来への提言」 【学校間交流・地域交流】

福祉の視点から地域を見直し、問題点や課題を見つけ、その解決方法を調べ考えさせる。また、未来の社会の担い手としての自覚をもって、積極的に関わっていこうとする心・態度を育成する。

○全校での小学校との連携 【学校間交流】

・学習・部活動体験会

次年度入学する小学生の学習と部活動の体験会を実施し、中学校生活に関する不安を解消する。

・L Tプラン（Little Teacher Plan）

夏休みに小学校の課外授業に支援者として参加し、小学生の学習のバックアップを行う。



第3分科会① 教科とのリンク(小学校)

いのちかがやけ

廣瀬 修也（東京都江東区立東雲小学校 教諭）

高学年の児童を見ていると、大きなめごとではなくとも、暴力的な言葉、自分中心の行動、見て見ぬふり、グループ化等気がかりな要素が日常的にあることに気付く。その都度話し合ったり、指導したりしてきたが、表面上では減ってきて、内面ではどうなのか手応えが感じられなかった。その理由の一つとして、「いのち」を大切にしようとする気持ちが希薄だからではないかと考えた。知識としては、どの子も「いのち」は大切だと分かっている。しかし、自分のものとして捉えられていないから様々な問題が起こるのだと考える。そこで、できるだけ体験活動を増やし、どの子もかけがえのない存在であることや生きていること、命があることのすばらしさを実感できるような授業が必要だと考え本単元を設定した。

さらに「いのち」を大切にすることとは一日一日を大切に生きていくということや夢や希望を持って、精一杯生きていくことが含まれると考える。そのために、以前の自分と現在の自分の比較を行う、自分を見つめる時間や「生きる」とはということか自分なりに考える時間を設けたい。小学校生活最後の年となった子どもたちに「いのち」「生きる」ことに真剣に向き合わせ心豊かな生活を送らせるきっかけにしたい。

本学習は様々な場での話し合いを重視したい。体験の場、課題追究の場、意見交換の場で自分の言葉で話し、相手の思いを受け止めながら聞くという経験はコミュニケーション能力の向上だけでなく互いを大切にすることにつながると思うからである。

《単元の目標》

- ・各自が「いのち」についてテーマをもち、意欲的に調べたり体験したりする中でその事実や実態について知る。
- ・「いのち」の大切さを実感し、ひとりひとりが人間として主体的・個性的にどう生きていくのかの意味を考え、深めていく。（自己を見つめる）
- ・学んだことを日常の中で生かす努力をする。
- ・自分の考えや思いを発表し合ったり聞き合ったりして、よりよい考えを導き出そうとする態度を養う。
- ・自分が主張したいことを発表する力を高める。
- ・様々な情報を集め、その活用能力や処理能力を高める。

《展開計画》

- いのちについて考えよう。
 - ①「いのち」についてアンケートを実施する。
 - ②アンケートの集計結果に基づいて、気づいたことを話し合う。
 - ③「いのちのコーナー」をやろう。（いのちに関係する質問に「正しい」「まちがっている」「多分正しい」「多分まちがっている」のいずれかの答えに移動する。
 - ④「いくら」（生き物の値段を通していのちを考える。）
- いのちと出会う。
 - ①人のいのちの場所を考えよう。
 - ②東京赤十字血液センターを見学しよう。
 - ③東雲芳香苑を訪問しよう。（老人ホーム）
 - ④赤ちゃんの誕生について助産師さんの話を聞こう。
 - ⑤いのちに関する話、体験、資料等を通して気づいたこと、感じたことを伝え合おう。
- いのちについて追究しよう。
 - ①各自追究したいテーマを決めよう。
 - ②調べる方法を考えよう。
 - ③テーマを調べよう。
 - ④調べたことをまとめよう。
 - ⑤まとめたものを発信しよう。
- いのち（生きる）についてメッセージを伝えよう。
 - ①メッセージの伝え方を知らせる。
 - ②今までの学びや学習をもとに、精一杯「生きる」ために大切なことについてテーマ（キーワード）を考える。
 - ③意見文のテーマとテーマ決定理由を簡単に発表し合う。
 - ④意見文を各自書く。
 - ⑤意見文を発表する。「わたしたちのメッセージ」
- 学習のまとめをしよう。
 - ①学習を振り返って「いのち」（生きる）に対する考えの深まりを書き、発表し合う。
 - ②全校児童に発信する。
 - ③車いすバスケットボールの体験をしよう。

第3分科会② 教科とのリンク(中学校、高等学校)

ESDで自尊感情を高める学びを

大塚 明 (静岡県伊豆市立天城中学校 校長)

- 1 本校の教育課題からESDと出会いユネスコスクールへ加盟

ESD (ユネスコスクール)

生徒に自信や誇りをもたせたい

持続可能な社会の担い手を育てる教育

- 2 持続可能な社会の担い手づくりという視点で教育活動全体を見直す

- ① 総合的な学習の時間をESDの視点で組み直す

ESDのKey Word
さまざまなつながり

《ポイント》

- ・ 地域での体験活動の重視
- ・ 地域の人とのつながりの重視



天城縦走でガイドの説明を聴く



福祉体験学習

- ② 各教科の時間と総合の時間のつながりを重視

《ポイント》

- ・ 各教科・道徳・特活と総合的な学習との横断的なつながりを重視 = ESDカレンダー

ESDのKey Word
Think Globally Act Locally

地球と 地域の課題の つながりの理解

各教科等で
地球規模の課題を学ぶ

地域で行動を起こす



2月の総合発表会



職場体験 (森林管理署)

- 3 目指すものは 地域を「持続可能な社会」にしよう

直接体験と

地域の人との
つながりから

学び・考え・行動する

自尊感情を高める

『生きる力』

体験を通して地域のよさを知る→ 誇り
地域の未来像を描く→ 考え・行動する

天城学習(総合的な学習の時間)年間計画

福祉体験学習 1年5月

デイサービス、介護老人保健施設等での体験を通じ、思いやりの心を育て共生の意味を考える。

天城縦走(宿泊体験学習) 1年10月・2年5月

天城の自然のすばらしさを体感すると共にその自然が壊れてきている現実を知り、地域の自然を持続するための方法を考える。

職場体験学習 2年10月

地域を支える仕事について体験を通して学び、地域を持続発展させるためには何が必要か考える。

修学旅行 3年5月

10年後の天城を持続発展させようをテーマに京都・奈良をモデル都市としてその魅力を探る。

地域学習 3年10月

京都・奈良の世界遺産の学習を基に、天城の魅力や課題から地域の持続発展のための提言をする。

総合発表会 全学年2月

1年間の学習の成果を互いに発表し合う。またお世話になった地域の方を招待して各学年の代表による全体の発表会を行う。



伊豆市長へ提言書を届ける

第4分科会 地域や博物館、企業、NPO等との連携

学校と危機管理課が連携 気仙沼防災マップ作り

～地域や関係機関と連携した地域を愛する心と防災意識を高めるE S D～

及川 理恵（宮城県気仙沼市立気仙沼小学校 教諭）

1 学習概要

宮城県沖地震による甚大な被害が想定されていた当地方では、児童に自然災害防止の重要性に気付かせ、防災意識を育む学習が必須なものであった。気仙沼市危機管理課の方と連携し、防災の視点を確実にもち、通学路点検を行い、防災マップにまとめたことは、自分の居住区における地震や津波による災害を想定でき、実際に災害が起こった場合の自分の行動や家族との話し合いを進めるきっかけとなった。

2 学習活動内容（全時間：市役所との連携学習）

- ①防災マップ作りオリエンテーション
- ②GPS機能を使用した通学路点検活動
- ③デジタル資料を利用した地区防災マップ作り
- ④防災マップ発表会
- ⑤津波防災シンポジウム参加（2月13日）



危機管理課の鈴木さん



通学路点検



マップ作り



発表会

3 防災意識を高めるE S Dの必然性

防災シンポジウムに参加し、児童が気仙沼地域の方々に防災の重要性を呼びかけてから約1ヶ月後、東日本大震災が起きる。学校に避難してきた方から、子どもたちの防災マップが役立ったことを話され、危機管理課との連携により、児童の作成した防災マップは正確な情報ともなった。そして、子どもたちは、3月11日、落ち着いた避難行動をとった。4月6日、職員が全児童の通学路を歩いて点検し、一人一人の歩行可能な通学路を示した通学路地図を作成し、児童の安全な歩行経路を確保した。

第5分科会 教材開発 環境教育

津谷を見つめ、地域を学び、ふるさとの未来を拓く子供の育成

～人とつなぐ、自然とつなぐ、未来へとつなぐ～

千葉 和一（宮城県気仙沼市立津谷小学校 教諭）

1 取り組みの概要

本校は、広い学区内に海、山、川、田畑、酪農地、丘陵地、商店街など、様々な自然、環境に恵まれている。今年度は「みやぎの志教育」と「気仙沼ESD教育」の理念を踏まえ、今まで以上に「地域に根ざした教育」を目指し、伝統的な緑化活動を基軸に、地域の歴史や文化、産業、環境など“ふるさと津谷のよさ”を知り、見つめ直す「地域教育」を展開している。具体的には、①主体的な思考力と伝え合う力を高める「言語活動」の充実、②栽培・勤労体験を通し、花と緑と生命あるものを大切にすることを育む「緑化教育」の充実、③津谷の自然環境を見つめ、地球環境を大切にする「環境教育」の充実、④津谷の食文化と自分たちの生活との関わりを考える「地域と食」の充実、⑤市内や他地域、海外のユネスコスクール、公民館、地域ボランティア等との連携による「校外活動・交流活動」の充実、⑥徒歩通学や運動・外遊びの実践による「気力・体力」の向上、という6つの柱を中心とした教育課程の実践に取り組んでいる。

2 実践事例（5、6年生の「地域と食」の活動例）

（1）5年生「探ろう！大豆・米の秘密！」

学習田での稲作体験学習（地域の農家を、学習支援ボランティアに迎えて）、教材園での大豆栽培（JAの協力を得て）によって収穫した米麹、大豆を材料とし、自家製味噌造り（地元で醤油味噌製造業を営む方を学習支援ボランティアに迎えて）をする。

（2）6年生「わたしたちの提案！本吉プラン」

本吉地区の地元食材や郷土料理を調べるとともに、修学旅行中の食事を郷土料理や特産品を使った献立にしてもらい（修学旅行先、旅行業者に依頼）、地域と食文化について学ぶ。それらを参考にしながら、学習田で収穫した米と自家製の味噌を使ってオリジナルレシピによる『町弁（津谷の町の食材を活用した弁当）』を作る。



第6分科会 教材開発 国際理解教育

尾道北高等学校における「E S D」の取組について

高村 聖悟（広島県立尾道北高等学校 教諭）

1 はじめに

学校概況

平成22年3月ユネスコスクールに加盟

2 実践の概要（平成22年度の取組）

テーマ「留学生との交流をととして、主体的に行動できる人材の育成を目指す」

(1)留学生との交流

- ①ドイツ人、フィンランド人留学生の受入れと交流
- ②中国人留学生の受入れと交流
- ③オーストラリア人留学生の受入れと交流

主な活動内容 ホスト役の生徒と授業へ参加、ユネスコスクール実行委員会と交流会 等

(2)外部講師を招聘しての講演会

- ①環境問題に関する講演（大学出張講義）
- ②異文化理解に関する講演（大学出張講義）

※本年度は、外務省職員、米国領事による講話等を計画

(3)2年次研修旅行におけるキャリア研修

- ①実施期日：7月29日（木）、30日（金）
- ②実施内容：東京方面への研修旅行で進路希望グループ別に企業、研究所、NPO等を訪問し、事前学習で学んできた内容や課題について、現場を実際に体験することによって学習の深化を図る。
- ③訪問先 生徒は、89箇所の団体のうち2箇所を訪問、
ユネスコスクール、E S D教育と関連の深い団体
ユネスコ国内委員会事務局、独立行政法人国際協力機構（JICA）、国際交流基金日本語国際センター、
国立博物館、クウェート大使館、日本ユニセフ協会等

3 成果と課題



中国人留学生との交流



講演会



研修旅行

第7分科会 ESDと評価(学力含む)

自律と共生をめざし、豊かな感性を培う子どもの育成 ～ESDで育む人間性～

村上 克行（広島県福山市立駅家西小学校 教諭）

本校は広島県南東部に位置し、学区東西は近郊型大型店舗地域、北は国指定史跡「二子塚古墳」、南は広島県一級河川「芦田川」と、自然と文化に恵まれ、地域の温かい理解と様々な支援が得られる中、今年度は創立28周年を迎える。平成20年度より文部科学省「新しい環境教育調査研究」「人権教育研究」等の指定校として、児童に豊かな感性を培いながら、「生きる力・学ぶ意欲」の醸成に取り組んでいる。とりわけESDの視点で教育課程を見直し、新学習指導要領で育む力を重視した駅西型ESD関連カレンダーを作成し、有効活用してきた。平成23年1月にはユネスコスクールの加盟校となり、＜希望ある未来、駅家・福山の担い手となる「生きる力」の育成＞をめざし、「ESDで育む人間性“自主”“自律”」を教師の合い言葉としてESDの深化と拡充に取り組んでいる。

1 実践の概要

(1)駅西型ESD関連カレンダーの特徴

- ・教育課程の3次元モデルで見える化
- ・つながりの理由を明文化

(2)ESD関連カレンダーを活用した学習指導案作成と授業実践

- ・問題解決型学習
課題意識→課題設定→課題追究→相互交流→実践と行動

(3)ESDで付けたい力を明文化

- ・「自律心」「思考力・判断力・表現力」「責任意識」

(4)評価について

- ・学習前に付けたい力を基に評価規準を作成
- ・学習後の見取り

2 成果

- 地域との結びつきが深くなった
- 体験活動と学力の評価による生活学力の向上
- 指導者の意識の変容

3 課題

- 新学習指導要領に対応するカリキュラムの作成
- 評価規準の見取り

シンポジウム(白鷹館) 15:40～16:40

国立教育政策研究所プロジェクト研究

「学校における持続可能な発展のための教育(E S D)に関する研究」

理論的枠組みの開発

国立教育政策研究所 総括研究官 五島 政一

国立教育政策研究所の研究では、教科等においてE S Dを具体的に実践する方法として目指すべき能力・態度に重点をおいて展開するパターン(視点整理型アプローチ)と、具体的な内容・方法に重点をおいて展開するパターン(チェックシート型アプローチ)を開発した。ここでは、視点整理アプローチについて説明する。

視点整理型アプローチでは、環境教育指導資料(国立教育政策研究所、2007)における枠組み(環境教育のねらい(目標)、環境をとらえる視点や環境教育で重視する能力と態度)を参考にし、各教科等で取り扱う学習内容を持続可能な社会づくりの視点からとらえるとともに、その教科等で重視する能力・態度や学習指導を進める上での留意事項などをE S Dの視点から設定・整理することが、学校においてE S Dを推進するために有効であると考え研究を進めた。

その研究開発した理論的枠組は、図1のようである。その作成の経緯について説明する。

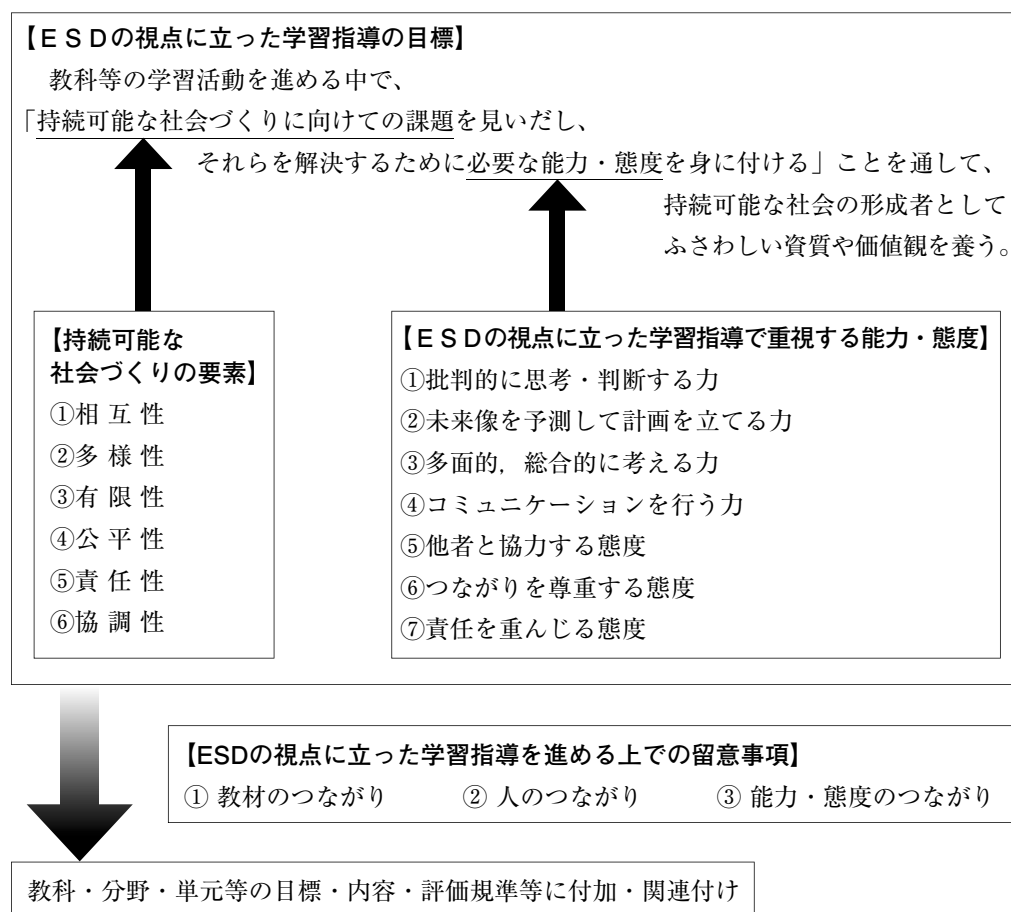


図1 ESDの視点に立った学習指導を進める上での枠組み

ESD 試行授業を通しての実践研究例

～ ESD 理論からどのように授業を組み立て、それを実践・検証していくのか～

国立教育政策研究所 基礎研究部 総括研究官 後藤 顕一

平成22年の本プロジェクト研究の報告書では、「視点整理型アプローチ」「チェックシート型アプローチ」という2つの研究を元に、理科・社会・総合的な学習の時間について授業作成に向けての研究を進め、表に示す16の実践研究事例を集録した。

※平成23年度は、さらに教科・科目を増やして実践研究を進めている。

今回のシンポジウムでは、本研究プロジェクトのなかで「視点整理型アプローチ」に基づいた実践研究事例を紹介する。視点整理型アプローチでは、以下のことを報告書にまとめ授業を検証した。

- 1 本単元でESDを進めるに当たって
- 2 単元の目標
- 3 指導計画
- 4 指導の実際
- 5 考察
- 6 期待と展望
(価値観や行動の変容に向けて)
- 7 視点整理型アプローチの成果と課題

	小学校	中学校	高等学校
理科	2	4	
社会	3	1	1
総合的な学習の時間	2	1	1
計	8	6	2

(表) 国立教育政策研究所プロジェクト研究報告書における実践研究事例数
(平成22年度)

「1 本単元でESDを進めるに当たって」では、学習指導要領や同解説書に基づいて、本単元の概要を解説するとともに、本単元の目標や内容・教材等を六つの要素（持続可能な社会づくりの要素）に基づいて、どのようにとらえるか、また本単元の授業展開を通して、児童生徒にどのような能力・態度（ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度）を育成したいのかなどを記述している。また、留意すべきことや力点を置きたいところは、「ESDの視点に立った学習指導を進める上での留意事項」等を参考にして作成している。「2 単元の目標 3 指導計画 4 指導の実際」では、単元の総括目標、四つの観点ごとの評価規準、主

な学習活動・内容と教師の指導の概要、本時の目標と展開などを記述し、「持続可能な社会づくりの要素」や「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」との考えが深いところに注目し、実践を振り返るようにしている。「5 考察」では取り組んだ実践における指導の効果・課題、児童生徒の変容などを記述し、また、想定どおり、実践できなかったことや、学習指導要領による教育課程での可能性などについても触れている。各実践例は特定の教科等におけるものであるため、これだけではESDの重点目標「価値観や行動の変容」の達成的には十分であるとはいえない。そのため、「6 期待と展望」では、各実践での学習活動やその成果などが、他の教育活動とどのようにつながり、広がっていくのか、また、他の地域や家庭での学種や活動とどう関わっていくかなどについて述べ、児童生徒の価値観や行動の変容に対する展望や期待を記述している。「7 視点整理型アプローチの成果と課題」では、視点整理型アプローチの検証として、各実践例を通してアプローチそのもののメリットとデメリットなどを記述している。

以上、これらを通じESDを取り入れた内容の授業実践において研究を深めた。

会場では、具体例として広島大学附属福山中学校 山下雅文教諭の実践研究事例について報告する。

カシオ計算機株式会社



「命の授業」の取り組み

持続可能な社会の実現を望み、2007年6月に立ち上げた出前授業:「命の授業」は、2011年11月11日現在で、小学校を主体に、延べ117の機関(幼稚園~大学、NPO、PTA等)、9,200名を数えました。全ての社会事象の根幹となる「命の大切さ」を伝えることで、将来のリーダーたる子どもたちの、社会及び地球環境への意識を喚起し、持続発展教育を根幹とした社会の実現へ思いを馳せております。授業の根幹は、「全ての絆」、「命の創造」、そして、「心の成長」に置いており、又、「真実」を伝えることで、「気付き」を、“本気で語る”ことで、「意識の醸成」を、そして、“変革を促す”ことで、子供たちの「行動」を喚起することを目指したものです。本授業は公開されるケースが多く、父兄の方々との触れ合いも通じ、大人社会への発信も同時進行しております。本授業が、真の持続可能な社会実現への糸口となり、広く社会に浸透することを願い、今後も積極的な活動を展開して参ります。



市川市文化会館 市川市民への講演(命の授業)風景

<問い合わせ先>

カシオ計算機株式会社 CSR推進室 若尾 久 TEL:03-5334-4901

サンウエブリフォームショップ R&B



サンウエブリフォームショップR&Bは、優れた商品とサービスを通じて、豊かで快適な住生活の未来に貢献するL I X I Lが認定する、地元根拠したキッチンリフォームのプロ集団である優良リフォーム会社の集まりです。昨年より「次世代教育支援」として、台所を通じて、家族や働くことの大切さを学習する教材キット『台所(キッチン)で遊ぼう、学ぼう』をNPO法人日本持続発展教育推進フォーラムと協働で制作し、これまで全国150校を超える小学校で活用いただいております。

本年は、東京家政学院大学 長谷徹教授のご協力の元、大学の授業で本教材を用いた教材研究をしていただきました。また、昨年第2回ユネスコスクール全国大会 ESD研究大会をきっかけに、本教材を小学校の英語教育でもご活用いただけるよう追加教材もご用意し、リニューアルさせました。これからも、子供たちに家族が集まる生活の拠点である『台所(キッチン)』を通じて、教科・領域横断的にESDの理念でもある、『持続可能な社会を担う』一員として、「家族との暮らし=生きること」の重要性を実感してもらうことを目指してまいります。

<問い合わせ先>

サンウエブリフォームショップR&B 教材事務局

TEL:03-5565-5695



協力:東京家政学院大学

積水ハウス株式会社



積水ハウスは環境省認定「エコ・ファースト企業」として、環境大臣と交わしたエコ・ファーストの3つの約束に基づく環境教育プログラムを用意し、教育支援活動を行っています。

約束1：生活時及び生産時のCO₂排出量削減を積極的に推進します

→実験を通じて暮らしの断熱性能について学ぶ、キャプテンアースの「いえコロジー」セミナー

約束2：生態系ネットワークの復活を積極的に推進します

→座学とフィールドワークを通じて、生態系の大切さを学ぶ、「Dr. フォレストからの手紙」

※なお、「Dr. フォレストからの手紙」はどなたでも教材をダウンロードできます。

<http://www.career-program.ne.jp/sekisuihouse.html>

約束3：資源循環の取り組みを徹底的に推進します

→当社の資源循環センターで「3R（リユース・リデュース・リサイクル）」の大切さを学ぶ「トレジャーハントツアー」

また、弊社のCSR・環境に関する様々な取り組みについては、「サステナビリティレポート2011」でご紹介しています。右記URLをご参照下さい。 <http://www.sekisuihouse.co.jp/sustainable/2011/index.html>

<問い合わせ先>

積水ハウス株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 CSR室 担当：信田（しのだ）

〒531-0076 大阪府大阪市北区大淀中1丁目1-88 梅田スカイビルタワーイースト

TEL：06-6440-3440 FAX：06-6440-3369



全国農業協同組合連合会

全 農

全農では、経営理念の一つである「地球の環境保全に積極的に取り組みます」にもとづき、「田んぼの生きもの調査」に取り組んできました。水田は、単にお米を生産するだけでなくメダカやドジョウ、カエルなど多様な生きものを育ててきました。この活動は、田んぼに足を踏み入れたときの水の冷たさや風の涼しさを実感し生きものに触れることから生物多様性の意義やいのちをいただくことの大切さを五感をフル動員しつつ考えてみようという活動です。このほかにも野菜の植え付けと収穫を行なう「農業体験ツアー」、食材について学びながら調理実習を行なう「親子料理教室」、スポーツ支援活動としての「チビリンピック」「少年野球教室」「ガールズバスケットボールキャンプ」など様々なSR活動に取り組んでいます。

<問い合わせ先>

全国農業協同組合連合会（JA全農）

広報部広報SR課：渡邊、山崎

〒100-6832 東京都千代田区大手町1丁目3番1号

TEL：03-6271-8056 FAX：03-5218-2506



ダノンウォーターズオブジャパン株式会社



ダノンウォーターズオブジャパンでは、2007年よりボルヴィック「1ℓ for 10ℓ」プログラムを展開し、今年、5年目のプログラムを無事に終えることが出来ました。また、このプログラムを通じて、水問題について学ぶ「ボルヴィック お水の教室」をNPO法人Waterscapeとともに展開してきました。この度、小学校用教材として新たに開発し、ペットボトルを利用した「ろか実験」や現地の生活に密着した映像を見ながら学ぶ「日本とマリの水とくらしクイズ」、水問題の現状と解決策を学ぶ「カルタゲーム」などの理科や社会、総合的な学習の時間等の授業でご活用いただける内容となっています。2011年6月より希望する学校へ無償配布を開始し、これまでに100校以上の先生方に配布しました。時間や内容などが授業で活用しやすい、映像教材が充実している、子どもたちが興味を持てる工夫がされている、など好評をいただいております。

現場で使用される先生方のフィードバックを参考に、さらに教材を有効にご活用いただけるよう、ブラッシュアップしていければと考えております。

<お問い合わせ先>

「ボルヴィック お水の教室」事務局

E-mail: water@ellesnet.co.jp TEL: 03-3545-3651



P&Gジャパン株式会社



P & Gは、世界中で事業を展開する生活消費財メーカーであり、アリエールやパンテーンなどを展開する一方、サステナビリティ（持続可能性）を重視し、社会貢献にも力を入れています。ESD推進については、弊社のもつ知識を生かして作成した「P & G 水と生活の環境教室」という出張授業プログラムを行っています。本プログラムの内容は、学習指導要領に基づいており、実際の学校の授業と関連づけながら、当社が製品開発から培った水の知識を組み込み、総合的に目と体で感じながら学べます。

本社のある兵庫県で2008年よりスタートし、現在は工場のある群馬県高崎市でも行っています。また2009年から全国の小学校向けに、授業用パワーポイント・テキスト・学習の手引きの無償配布を継続しています。

現在、兵庫県の小学校で105校7,396人、高崎市で9校802人に向けて出張授業を行い、全国318校65,377人に学習セットを配布しました。

今後も、本プログラムを当社の社会貢献活動の中心として、拡大したいと考えております。

<問い合わせ先>

環境教室 教材事務局

TEL: 03-3541-1058



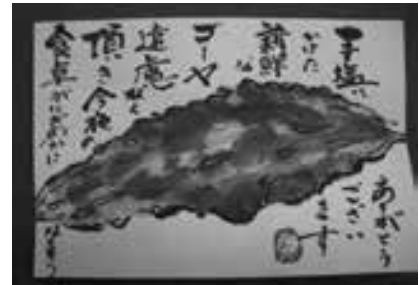
私たち株式会社リッチェルはISO14001認証取得のリサイクル工場をもち、資源の再生、再利用に積極的に取り組むことで、よりよい未来環境づくりの持続発展教育活動を支援しています。また「緑のカーテン」や「緑のカーペット」の取り組み、野菜づくりや植物の栽培などの活動を支援することで、食・生命・生活を通して広く学習の機会を提供すると同時に、栽培過程の失敗や成功、収穫のよろこび、涼しさの実感などは、自ら気づき考える力を養う大きな経験となっています。今回の「太陽パネル」や「雨水タンク」などを活用した環境にやさしい「エコ栽培システム」は、太陽光と雨水の活用による自然循環学習に最適です。また、野菜づくりや植物の生育、収穫の喜びを地域の人々と共有することは、社会性の育成にも大変役立ちます。私たちは、子どもたちが自らの問題について考え、立ち向かい、解決するための学習の場を提供し、環境・エコに取り組む意欲や能力、社会性を育てることを目指しています。

<問い合わせ先>

株式会社リッチェル 第2営業部 環境・エコ用品販売課 担当：大久保、前田

〒939-2953 富山市水橋桜木136

TEL：076-478-2184（直通） FAX：076-478-2259 [http：www.richell.co.jp](http://www.richell.co.jp)



多摩市西落合小学校（地域の人たちとの共同作業） 多摩市東愛宕中学校（緑のカーテンと地域の人からの感謝の絵手紙）

ユネスコスクール一覧 (2011 年3月現在)

区分	学 校 名	都道府県	市町村
幼稚園	清泉幼稚園	北海道	室蘭市
	湖畔幼稚園	北海道	釧路市
	気仙沼市立馬籠幼稚園	宮城県	気仙沼市
	奈良市立富雄北幼稚園	奈良県	奈良市
	奈良市立六条幼稚園	奈良県	奈良市
	鳳鳴乃里幼稚舎	佐賀県	佐賀市
小学校	石狩市立生振小学校	北海道	石狩市
	千歳市立緑小学校	北海道	千歳市
	千歳市立末広小学校	北海道	千歳市
	北海道教育大学附属釧路小学校	北海道	釧路市
	江別市立対雁小学校	北海道	江別市
	斜里町立峰浜小学校	北海道	斜里町
	恵庭市立松恵小学校	北海道	恵庭市
	厚岸町立太田小学校	北海道	厚岸町
	角田市立東根小学校	宮城県	角田市
	栗原市立高清水小学校	宮城県	栗原市
	気仙沼市立水梨小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立浦島小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立大島小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立面瀬小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立鹿折小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立新城小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立中井小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立白山小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立階上小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立松岩小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立月立小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立落合小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立唐桑小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立気仙沼小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立南気仙沼小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立九条小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立小原木小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立馬籠小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立津谷小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立大谷小学校	宮城県	気仙沼市
	白石市立白石第二小学校	宮城県	白石市
	白石市立白川小学校	宮城県	白石市
	仙台市立中野小学校	宮城県	仙台市
	宮城教育大学附属小学校	宮城県	仙台市
	富谷町立日吉台小学校	宮城県	富谷町
	丸森町立金山小学校	宮城県	丸森町
新庄市立北辰小学校	山形県	新庄市	
新庄市立新庄小学校	山形県	新庄市	
新庄市立沼田小学校	山形県	新庄市	
高崎市立六郷小学校	群馬県	高崎市	
前橋市立大胡東小学校	群馬県	前橋市	
熊谷市立久下小学校	埼玉県	熊谷市	
熊谷市立佐谷田小学校	埼玉県	熊谷市	
市川市立中山小学校	千葉県	市川市	
市川市立稲越小学校	千葉県	市川市	
市川市立鶴指小学校	千葉県	市川市	

区分	学 校 名	都道府県	市町村	
小	市川市立大野小学校	千葉県	市川市	
	江東区立東雲小学校	東京都	江東区	
	江東区立八名川小学校	東京都	江東区	
	新宿区立西戸山小学校	東京都	新宿区	
	東京学芸大学附属大泉小学校	東京都	練馬区	
	小笠原村立小笠原小学校	東京都	小笠原村	
	小笠原村立母島小学校	東京都	小笠原村	
	調布市立布田小学校	東京都	調布市	
	目黒区立五本木小学校	東京都	目黒区	
	多摩市立永山小学校	東京都	多摩市	
	多摩市立西落合小学校	東京都	多摩市	
	多摩市立貝取小学校	東京都	多摩市	
	多摩市立豊ヶ丘小学校	東京都	多摩市	
	多摩市立北諏訪小学校	東京都	多摩市	
	多摩市立南鶴牧小学校	東京都	多摩市	
	多摩市立東寺方小学校	東京都	多摩市	
	多摩市立多摩第二小学校	東京都	多摩市	
	多摩市立多摩第三小学校	東京都	多摩市	
	多摩市立東愛宕小学校	東京都	多摩市	
	学	多摩市立連光寺小学校	東京都	多摩市
多摩市立大松台小学校		東京都	多摩市	
横浜市立永田台小学校		神奈川県	横浜市	
十日町市立飛渡第一小学校		新潟県	十日町市	
新潟市立下山小学校		新潟県	新潟市	
新潟市立上山小学校		新潟県	新潟市	
見附市立見附小学校		新潟県	見附市	
見附市立田井小学校		新潟県	見附市	
見附市立上北谷小学校		新潟県	見附市	
見附市立見附第二小学校		新潟県	見附市	
柏崎市立北鯖石小学校		新潟県	柏崎市	
佐渡市立相川小学校		新潟県	佐渡市	
校		富山市立中央小学校	富山県	富山市
		富山市立寒江小学校	富山県	富山市
		富山市立五福小学校	富山県	富山市
		氷見市立朝日丘小学校	富山県	氷見市
		金沢市立浅野川小学校	石川県	金沢市
		金沢市立朝日小学校	石川県	金沢市
		金沢市立金石町小学校	石川県	金沢市
		金沢市立材木町小学校	石川県	金沢市
	金沢市立四十万小学校	石川県	金沢市	
	金沢市立田上小学校	石川県	金沢市	
	金沢市立戸板小学校	石川県	金沢市	
	金沢市立野町小学校	石川県	金沢市	
	金沢市立森山町小学校	石川県	金沢市	
	金沢市立弥生小学校	石川県	金沢市	
	金沢市立中央小学校	石川県	金沢市	
	金沢市立花園小学校	石川県	金沢市	
	金沢市立鞍月小学校	石川県	金沢市	
	金沢市立三馬小学校	石川県	金沢市	
	金沢市立味噌蔵町小学校	石川県	金沢市	
	金沢市立三谷小学校	石川県	金沢市	
金沢市立長坂台小学校	石川県	金沢市		

区分	学 校 名	都道府県	市町村
中 学 校	松原市立松原第七中学校	大阪府	松原市
	寝屋川市立寝屋川第十中学校	大阪府	寝屋川市
	奈良教育大学附属中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立興東中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立月ヶ瀬中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立三笠中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立柳生中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立平城西中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立二名中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立都南中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立京西中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立富雄中学校	奈良県	奈良市
	橿原市立畝傍中学校	奈良県	橿原市
	和歌山市立伏虎中学校	和歌山県	和歌山市
	大竹市立栗谷中学校	広島県	大竹市
	山陽女学園中等部	広島県	廿日市市
	如水館中学校	広島県	三原市
	周南市立太華中学校	山口県	周南市
	防府市立佐波中学校	山口県	防府市
中 高 一 貫 校	北海道登別明日中等教育学校	北海道	登別市
	宮城県仙台二華中学校・高等学校	宮城県	仙台市
	仙台育英学園秀光中等教育学校	宮城県	多賀城市
	茨城県立並木中等教育学校	茨城県	つくば市
	渋谷教育学園幕張中学・高等学校	千葉県	千葉市
	武蔵野女子学院中学校・高等学校	東京都	西東京市
	雙葉中学校・高等学校	東京都	千代田区
	東京学芸大学附属国際中等教育学校	東京都	練馬区
	新潟県立燕中等教育学校	新潟県	燕市
	星陵中学校・高等学校	静岡県	富士宮市
	名古屋大学教育学部附属中・高等学校	愛知県	名古屋市
	浪速中学校・高等学校	大阪府	大阪市
	大阪学芸中等教育学校	大阪府	大阪市
	奈良女子大学附属中等教育学校	奈良県	奈良市
	広島県立広島中学・高等学校	広島県	東広島市
高 等 学 校	市立札幌大通高等学校	北海道	札幌市
	北海道斜里高等学校	北海道	斜里町
	海星学院高等学校	北海道	室蘭市
	北海道清里高等学校	北海道	清里町
	北海道遠軽高等学校	北海道	遠軽町
	北海道礼文高等学校	北海道	礼文町
	盛岡中央高等学校	岩手県	盛岡市
	宮城県気仙沼高等学校	宮城県	気仙沼市
	宮城県気仙沼西高等学校	宮城県	気仙沼市
	秋田市立秋田商業高等学校	秋田県	秋田市
	明桜高等学校	秋田県	秋田市
	国際学院高等学校	埼玉県	伊奈町
	市原中央高等学校	千葉県	市原市
	千葉県立市川昂高等学校	千葉県	市川市
	千葉県立佐倉南高等学校	千葉県	佐倉市
	筑波大学附属駒場高等学校	東京都	世田谷区
	東京都立三田高等学校	東京都	港区
	渋谷教育学園渋谷高等学校	東京都	渋谷区

区分	学 校 名	都道府県	市町村
高 等 学 校	八王子高等学校	東京都	八王子市
	神奈川県立有馬高等学校	神奈川県	海老名市
	新潟県立国際情報高等学校	新潟県	南魚沼市
	中部大学第一高等学校	愛知県	日進市
	大阪教育大学附属高等学校池田校舎	大阪府	池田市
	大阪府立住吉高等学校	大阪府	大阪市
	大阪府立北淀高等学校	大阪府	大阪市
	大阪府立長野高等学校	大阪府	河内長野市
	羽衣学園高等学校	大阪府	高石市
	大阪府立松原高等学校	大阪府	松原市
	大阪府立能勢高等学校	大阪府	能勢町
	明浄学院高等学校	大阪府	大阪市
	大阪府立枚方高等学校	大阪府	枚方市
	奈良県立法隆寺国際高等学校	奈良県	斑鳩町
	神戸市立葺合高等学校	兵庫県	神戸市
	和歌山県立串本古座高等学校	和歌山県	串本町
	岡山県立矢掛高等学校	岡山県	矢掛町
	岡山龍谷高等学校	岡山県	笠岡市
	岡山県立岡山一宮高等学校	岡山県	岡山市
大 学	岡山学芸館高等学校	岡山県	岡山市
	岡山県立和気閑谷高等学校	岡山県	和気町
	広島県立呉三津田高等学校	広島県	呉市
	山陽女学園高等部	広島県	廿日市市
	広島大学附属高等学校	広島県	広島市
	広島県立広島国泰寺高等学校	広島県	広島市
	山陽高等学校	広島県	広島市
	広島県立福山誠之館高等学校	広島県	福山市
	広島県立三次高等学校	広島県	三次市
	広島県立広島井口高等学校	広島県	広島市
	広島県立安芸府中高等学校	広島県	府中町
	広島県立尾道北高等学校	広島県	尾道市
	如水館高等学校	広島県	三原市
	愛媛県立新居浜南高等学校	愛媛県	新居浜市
	福岡県立武蔵台高等学校	福岡県	筑紫野市
	福岡県立城南高等学校	福岡県	福岡市
	国立大学法人宮城教育大学	宮城県	仙台市
	玉川大学（教育学部）	東京都	町田市
	国立大学法人三重大学	三重県	津市
そ の 他	国立大学法人奈良教育大学	奈良県	奈良市
	見附市立見附特別支援学校	新潟県	見附市
	練馬和光保育園	東京都	練馬区
	斜里町立ウトロ小中学校	北海道	斜里町
	釧路市立山花小中学校	北海道	釧路市
	東京都足立区興本扇学園	東京都	足立区
	東京賢治シュタイナー学園	東京都	立川市
そ の 他	横浜シュタイナー学園	神奈川県	横浜市
	奈良市田原小中学校	奈良県	奈良市
	京田辺シュタイナー学校	京都府	京田辺市

「教育と心の復興プロジェクト」被災児童生徒奨学金 活 動 報 告

NPO法人日本持続発展教育推進フォーラムと株式会社教育新聞社は、3月11日に発生した、東日本大震災の甚大な被害状況から、4月より「教育と心の復興プロジェクト」を設立し、多くの方々から800万円を越えるご支援をいただきました。

9月末に被災地への支給が完了しましたので、ご報告させていただきます。

本奨学金の後援団体である全日本中学校長会、全国高等学校長協会、全国連合退職校長会をはじめ、被災地の各自治体校長会のご協力をいただき、岩手県、宮城県、福島県の合計128校の小・中・高等学校への支援が決定し、各校へ給付を行いました。

本奨学金は被災児童・生徒が在籍している公立学校を支給対象とし、「学校」を通して教育活動等に支出されるよう「給付型」として、学納金、給食費、文具代、教材費、教具費、施設費、通学費の補助などに使用されます。

募金活動実施期間 2011年4月6日～2011年8月30日

募金総額 8,245,044円

「教育と心の復興プロジェクト 被災児童生徒奨学金」へのご協力ありがとうございました。

NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム・株式会社教育新聞社
「教育と心の復興プロジェクト」被災児童生徒奨学金事務局

持続発展教育(E S D)大賞 Education for Sustainable Development Award

N P O 法人日本持続発展教育推進フォーラムでは、持続発展教育（E S D : Education for Sustainable Development）の取り組みを実践する学校を奨励する「持続発展教育（E S D）大賞」を実施しています。

本事業は、全国の小・中・高等学校から実践的研究事例を募り、持続発展教育に該当する実践を奨励するとともに、その輪を広げ、日本の持続発展教育の推進に寄与することを目指し、実施するものです。本大会閉会式にて受賞校の表彰式を行います。また、受賞内容はESDの実践教材としてまとめ、年度末までに大会参加者へ配布させていただく予定です。

なお、本年度の持続発展教育（E S D）大賞は、カシオ計算機株式会社様にご協力いただいております。

第2回持続発展教育(E S D)大賞 受賞校

持続発展教育(E S D)大賞
奈良県奈良市立柳生中学校

ユネスコスクール最優秀賞
宮城県気仙沼市立階上中学校

小学校賞
広島県福山市立駅家西小学校

中学校賞
東京学芸大学附属国際中等教育学校

高等学校賞
秋田県秋田市立秋田商業高等学校

審査委員特別賞
千葉県市川市立稲越小学校

協力企業一覧（50音順）

カシオ計算機株式会社
サンウエーブリフォームショップR&B
積水ハウス株式会社
全国農業協同組合連合会
ダノンウォーターズオブジャパン株式会社
P&Gジャパン株式会社
株式会社リッチェル

展示団体一覧（50音順）

特定非営利活動法人開発教育協会
独立行政法人国際協力機構（JICA）
認定特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育の10年推進会議（ESD-J）
ジャパンアートマイル実行委員会
一般社団法人たったひとつの命
国立大学法人東京海洋大学
財団法人日本漢字能力検定協会
公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
フルブライト・ジャパン（日米教育委員会）

第3回ユネスコスクール全国大会 持続発展教育（ESD）研究大会 抄録集

発行日：平成23年11月12日

発行：NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム

<http://www.jp-esd.org>

〒110-0005 東京都台東区上野3-17-7

Tel：03-3832-3581

Fax：03-3832-3570

E-mail：info@jp-esd.org



「ESDの深化と拡充」

